



地域学校協働活動だより

令和8年10月30日発行 福島県教育庁県北教育事務所

～まつかわ学～

福島市立松陵義務教育学校

10月22日（木）に、福島市立松陵義務教育学校の総合的な学習の時間の授業を参観しました。8・9年生172名が「中学生が松川を変える」をテーマに、「環境」「産業」「福祉」「生活安全」「伝統文化」などのグループに分かれて、地域ボランティアや学生ボランティアの協力を得ながら「松川町の朝市」や「夕方ひろば」などのイベントや「まつかわ学発表会」の準備に取り組んでいました。



地域から出るごみの量を減らすために、家庭でも取り組めることを紹介しようと思っています。そのために、今まで捨てるだけだったトイレットペーパーの芯を輪切りにして、それをポットにしてオクラの苗を育てているところです。ちょっと季節外れですが・・・

（8年生「環境」グループ）

【ごみの再利用や詐欺被害防止の呼びかけについて話し合う8年生】

私たちは夕方ひろばでカルタ大会をします。自分たちも小さいころから「松川カルタ」を楽しんできましたが、札の意味がわからないものもあって、あらためてそれぞれの内容を調べて、大会のときに子供たちに説明できるようにしたいなと思っています。

（9年生「伝統文化」グループ）



【「松川町の朝市」に向けて看板づくりや編み物の制作に励む9年生】



歴史や文化など、様々な分野に詳しい方々から専門的に学ぶことに加えて、地域の方が日常的に入ること、児童生徒のコミュニケーションの力が高まっていると感じます。教職員以外の幅広い年代の方々と関わることで、物怖じせずに話せる子が増えてきています。

（副校長先生より）

【地域のよさを伝えるために自分にできることを考え続けています】



9年生の「伝統文化」グループを指導されていた加藤一郎さんと丹野義明さんは、松陵義務教育学校の地域ボランティア「まつかわフレンズ」に登録し、統合前から小中学校の地域学習に協力されてきました。丹野さんは「今回の学習では、生徒の方から『八丁目城跡でイベントを行いたい』という提案があり、城の歴史を次の世代にどうつないでいくかを考えていた私にとっては、またとない機会になりました。」、加藤さんは「あのカルタは、たくさんの大人と子供で知恵を絞って時間をかけてつくりました。それを使って地域のよさを広めてくれる生徒がいるのはうれしいですね。風化しつつある『松川事件』について調べてくれている子たちのことも応援しています。」と思いを語ってくださいました。